

# IFSAのビジョン

「日本に脈打つ公益精神を、留学生を通して、地域社会に更には世界に広める。」

問い：日本に**公益精神**はあるのか？ = 日本人自身も気付いていない

⇒ 留学生や来日外国人（第三者）が口々に語る話：  
・日本は住みやすい（つまり、**人が優しい** > 整った生活環境）

「**人が優しい**」の背後にあるものは何か？

人を信じる  
人を思いやる } **社会**

⇒ どうして「**人を信じる社会**」になったのかを、発信し、見える化する。

IFSA 向学新聞：「**現代日本の源流**」

- ・ 社会や世界のために生きた日本人
  - ・ 夫婦愛や家庭を大切にされた日本人
  - ・ 自然の中の真理を追究した日本人
- 先人の根底には、  
「**他者を想う思想**」  
「**目に見えぬものを畏れる思想**」

既に生活化していて、日本人も意識していない。

- ex. 周りに誰もいないのに、赤信号を待ち続ける。
- 玄関先に集金のお金を置いておく。
- パチが当たるからと、無駄をいさめる。
- 地震で被災した中でも、譲り合い助け合う。

「**日本を通して公益精神を体感し、社会や世界を豊かにする人生を生きて欲しい。**」

日本における**学び** = **公益精神の体得**  
(世界共通の普遍的価値)

日本では企業に「**企業目的それ自体が人材育成**」の思想がある。  
ex. 日本企業から外資企業に転職した外国人の声：育成してもらっていたことに気づいた。  
日本社会の魅力は「**人を育てる力**」である。解決し発展させる先進地である。  
ex. 世界に先駆けて問題を克服してきた：高齢化、公害、交通事故、自然災害、地震。

## 時代背景

### ～1980年代

日本の経済発展 ⇒ アジア圏を中心に留学生が増えてくる  
・ 特に国費生など、将来の国のリーダーになる優秀な学生が多かった。  
⇒ 情報不足、受け入れ体制不足、交流不足、社会的な不理解で、  
結果として**日本にマイナスの印象**を持って帰国する学生が一定数いた。

### IFSA 創立

### 1990年代～

IFSAによる留学生サポート  
・ 国際交流の発展促進 ex. 国際学生指導者シンポジウム  
・ 留学生への物心援助 ex. 留学生のための就職フォーラム、企業への推薦  
・ 留学生の向学心助長 ex. 向学新聞、企業研究雑誌  
⇒ **林健太郎先生（元東京大学総長）**を会長に、**大学界、経済界、大使館**などが参画。  
・ 外国人の就職市場を切り拓き、日本に溶け込む道を拓いた。  
・ 日本社会が外国人を受け入れていく素地を作った。

### 留学の大衆化

### 2000年代～2010年代中頃

大手人材会社の参入：外国人の就職の推進 ⇔ 労働力としての評価の行き過ぎ  
外国人の日本定着の増加：日本国内の国際化 ⇔ お金が目的での来日の増加  
留学生 30万人計画：留学生数の増加 ⇔ 英語コースの留学が増え日本語できず

### 2020年に向けて

- 1) 留学生を迎える原点に立ち返り、外国人を労働力として捉えるのではなく、日本社会の一員として、喜んで生活できる共生の青写真を作る時が来ている。
- 2) 外国人をサポートされる側としてではなく、サポートする側として、リーダーとして迎え育てていく時が来ている。
- 3) 交流の中心=核となる人材を、社会および政府が明確なビジョンを以って育てていくべき時が来ている。
- 4) 外国人が定着し実りある幸福な人生を送ることができるよう、あるべき家庭や地域社会の姿を根本から考え直すことは、日本の新しい国づくりにつながる。
- 5) ハングリー精神ある外国人と日本人が切磋琢磨することで好循環を生み出す。

留学生を再び世界へ！

社会全体での教育の環境づくり。  
IFSAも含め共感の輪を広める。バラバラな取り組みをまとめていく。  
⇒ 真の共生社会のスタンダードを作る。枠組みが可視化されれば広まる。  
世界に向けてのモデルを示す。そのためにも精神的な軸が重要である。